

## いわき農林事務所ニュース 2005年4月号

### 活動状況

#### ○親子で本格的な地中海料理を体験！ ～第2回いわきの味を楽しむ会～

平成17年3月5日（土）に、第2回いわきの味を楽しむ会がいわき市文化センターの調理実習室で開催されました。

今回は、食事の楽しさと大切さを実感してもらうとともに、地産地消と健全な食生活を推進することを目的に、親子そろって楽しめる料理教室を行いました。当日は、いわき市内の親子15組40名といわき農業青年クラブ会員4名が参加し、いわき産の旬の野菜をふんだんに使った「パレンシア風(ふう)パエリア」「カタルーニャ風ホウレンソウのソテー」「いわき風ミネストローネ」「季節のフルーツのゼリー寄せ」の4品の調理を行いました。特に、「いわき風(ふう)ミネストローネ」は、今回の料理教室のオリジナル料理で、いわき産のさといもや大根、ネギも使用して調理しました。

講師は、うつくしま『食』『農』サポーターの遠藤功治氏と北尾博水(ひろみ)氏のお二人にお願いし、講師にはレシピづくりから協力していただきました。

参加した子供達は、先生から野菜やフルーツの下ごしらえの方法、火の通し方などを丁寧に教えてもらい、いわき産の野菜にも大変興味を持った様子で楽しそうに調理していました。また、保護者の皆さんも普段はあまり使わないサフランやシナモンでの香り付けで、野菜やお米をよりおいしく食べるバリエーションを大変喜んでいました。

野菜の一部を提供した青年クラブの会員も一緒に調理に参加し、自分の作った野菜について参加者の皆さんと意見を交換していました。

参加者からは、「生産者と交流できて良かった」「いわきの食材を使って普段できない料理ができて良かった」などの意見がよせられ、大変有意義な親子料理教室となりました。



みんな楽しく調理中！



自分で作ったご飯はとっても美味しい！？

#### ○ エコファーマーに46人を認定しました！

平成17年3月7日(月)、エコファーマーの認定証交付式が、県いわき合同庁舎で開かれました。今回認定を受けたのは、水稲、イチゴ、ハウレンソウなどの生産農家46名で、JAいわき中部の水稲生産者(13名)、JAいわき市イチゴ部会(役員9名)、三和(みわ)地区の直売所運営者(18名)のメンバーが含まれています。

いわき地方では、これまで個人単位での認定が主で、団体に所属するメンバーがまとまって認定を受けるケースはほとんどありませんでしたが、関係機関が一体となった取り組みの結果、生産部会や直売所単位での認定が浸透してきたところです。

現在は、エコファーマーが生産した農産物と一般の農産物との分別集荷が行われていないことから、価格差はつかない状況ですが、差別化販売に繋げていくためには、生産団体の構成員すべてが認定され、ロットを大きくして出荷していくことが重要です。いわき農林事務所では、部会などの単位での全員認定を目標に、今後とも啓発活動を行っていく計画です。

※主な認定者の横顔

○JAいわき中部の水稲生産者(13名)

すでに水稲で認定されていた2名に加え13名が新たに認定されました。の中には、特別栽培に取り組んでる生産者も含まれています。今後はJAいわき中部として管内水稲生産者のエコファーマー認定に向けて本格的に取り組む計画で、17年度は渡辺地区と常磐地区を重点的に推進する予定です。

○JAいわき市いちご部会(9名)

イチゴ部会の構成員は約60名で、今回は役員9名が認定を受けました。平成17年度は、過半数の生産者の認定を目指しています。

○三和(みわ)地区の直売所運営者(18名)

今年度のいわき市「三和(みわ)地区健康野菜生産協議会健康野菜生産部会事業」活動の中で、認定に向けた技術講習や学校給食食材に関する意見交換などを実施してきた結果、今回18名が認定を受けました。平成17年度は、三和(みわ)地区の学校給食への食材提供に向け、生産体制を整備していく予定です。



認定式の様子

○食農教育講演会「今、求められる食農教育」  
～うつくしま『食』『農』サポーター研修会～

平成17年3月10日(木)、いわき合同庁舎において、食農教育講演会を開催しました。

今回の講演会は、食と農に関する技術と知識を普及するためのボランティア「うつくしま『食』『農』サポーター」の研修の一環として実施しました。

講師は、郡山女子大学教授の鈴木里子先生にお願いし「今、求められる食農教育」をテーマに、生活習慣病や少子高齢化などの社会状況での食農教育の必要性やこれまで家庭で行われた食育について、栄養学の専門的な見地からお話をいただきました。

当日は、うつくしま『食』『農』サポーター21名を含む60名が参加し、食と農に対する関心の高さがうかがわれました。

参加者からは、「地産地消やスローフードについて今まで以上に興味を持った」「食の大切さを認識し、もっと詳しく知りたい」などの意見があり、食農教育の大切さを再認識するとともに健全な食生活の推進に向けて有意義な講演会となりました。



郡山女子大学教授の鈴木里子先生の講演

○福島グリーンフォレスターに3名が認定されました！

3月14日（月）、平成16年度福島県グリーンフォレスター認定書交付式がいわき農林事務所において行われました。

「福島県グリーンフォレスター」は、県民参加による森林づくり運動の促進を図るため、森林整備活動や森林環境教育を通して、林業の重要性や技術などを広く県民に伝えるボランティアによる指導者です。このため、森林・林業の現状や作業の安全対策に関する養成講座を受講のうえ、レポートによる審査を受けて認定されます。

今回、県内では24名が認定され、当管内からは大谷輝雄さん、熊谷達也さん、蛭田一さんの3名が認定されました。交付式では、いわき農林事務所の小山所長から県知事の認定書が交付されました。

今年度認定されたグリーンフォレスター3名は、「森林づくりの大切さを多くの人に知ってもらい、ボランティアの方々と一緒に活動したい」などと意欲を語られ、今後、管内の森林づくり活動のなかで、森林林業の重要性などを広く伝える指導者として活躍することが期待されます。



グリーンフォレスターに認定された皆さん

### ○永井地区営農改善組合が県知事を受賞 ～豊かなむらづくり顕彰事業表彰式～

平成17年3月17日（木）、豊かなむらづくり顕彰事業表彰式が福島市の杉妻会館で行われました。いわき地方からは、永井営農改善組合が豊かなむらづくり部門で県知事賞と福島民友(ふくしまみんゆう)社長賞を受賞しました。

永井地区営農改善組合は、三和(みわ)町永井地区の農業の振興と農業経営の改善を目的に平成14年に設立され、ソバの生産や地区内農用地の集積、地区と都市住民との交流、中学生の農業体験への支援、伝統芸能の継承などを積極的に推進してきました。これらの実績が評価され今回の受賞の運びとなりました。

藁谷組合長は、「今後は担い手の育成に力をいれていきたい」と受賞にあたっての抱負を語っており、益々の活躍が期待されるそうです。



永井地区営農改善組合の皆さん

◀ もどる

すすむ ▶

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]